

## ミカンキイロアザミウマの初期増殖抑制技術

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

担当者：戸田 世嗣

### 研究のねらい

ミカンキイロアザミウマはハウスミカン、ハウスカキおよびハウスモモの果実を加害する。本種に加害された果実は外観が著しく損なわれるため、商品価値が低下する。本種は様々な植物の花に寄生し、増殖することは知られている。しかし、果樹園の下草や周辺雑草における発生の調査事例はない。そこで、発生源として重要な果樹園周辺の植物について本種の寄生の有無を調査した。

### 研究の成果

- 1 29科62種の植物について寄生の有無を調査した。その結果、7種を除く全ての植物からミカンキイロアザミウマ成虫が採集された。
- 2 カラスノエンドウ、キキョウソウ、ナズナ、ヤエムグラ、スズメノテッポウはミカンキイロアザミウマの重要な増殖植物である。
- 3 エノコログサ、カタバミ、ツユクサからもミカンキイロアザミウマが多数採集された。しかし、幼虫の採集頭数が少ないことから、これらの雑草は増殖植物でない。
- 4 雑草上での発生は5月～7月上旬にピークとなり、その後急速に減少する。
- 5 カラスノエンドウ、ナズナ、ヤエムグラ、スズメノテッポウはカンキツ園の下草として普通に見られる。これらの雑草は越冬後のミカンキイロアザミウマの重要な増殖植物となるので、4月下旬までに除草し、雑草における本種の増殖を防止する。

### 普及上の留意点

5月以降の除草は、ミカンキイロアザミウマの雑草上からミカンハウスへの移動を助長する恐れがあるので、下草や周辺雑草の除草は4月下旬までに徹底して行う。

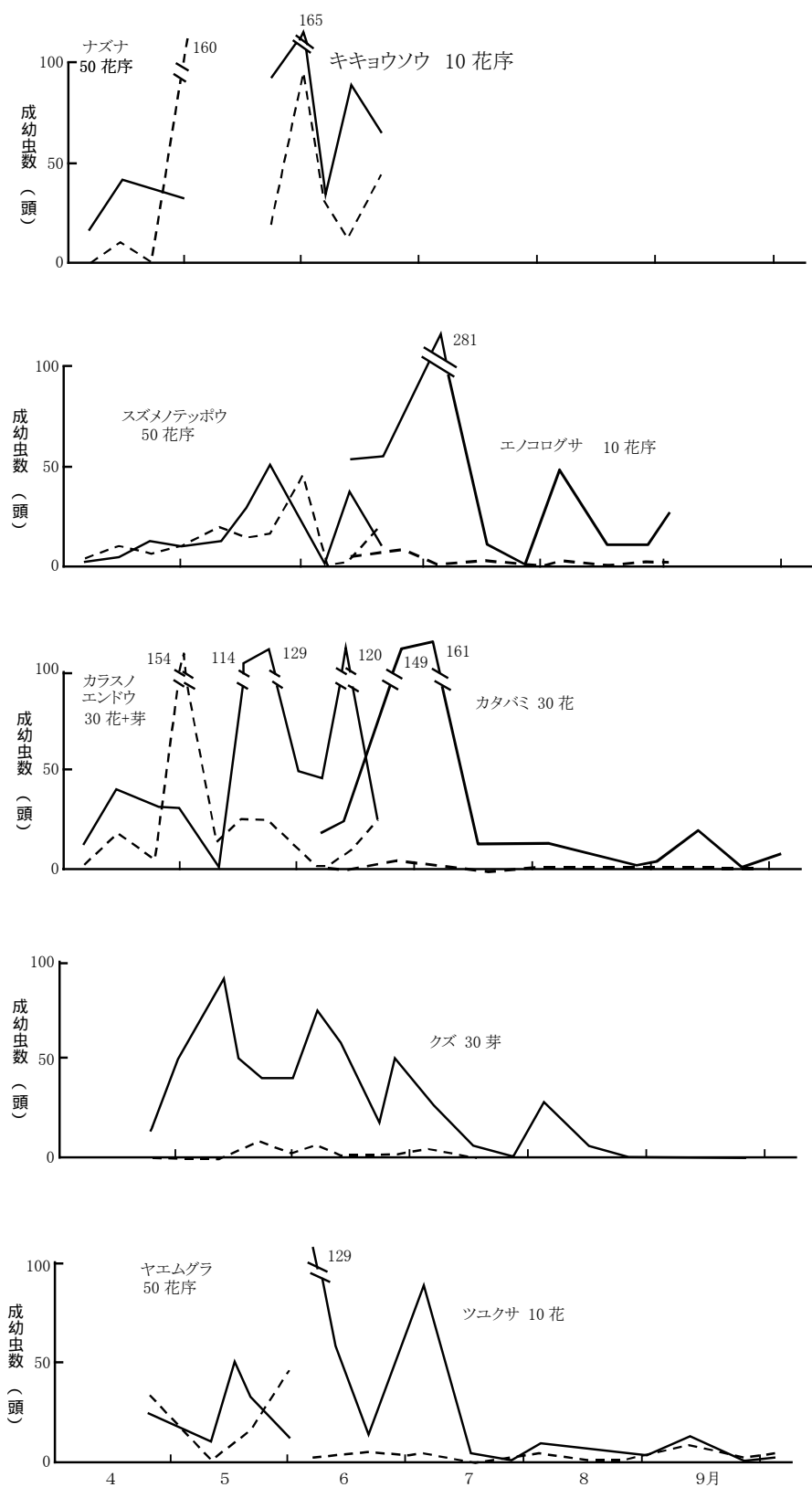


図1 雑草上におけるミカンキイロアザミウマ成幼虫の発生消長  
 実線：成虫 点線：幼虫